# 「熟議 2014 in 兵庫大学」へのご参加の御礼とこれからのことについて

兵庫大学熟議プロジェクト
リーダー　　田 端　和 彦

このたびは、「熟議 2014 in 兵庫大学」にご参加くださいまして誠にありがとうございました。今年で 3 年目の熟議、加古川地域を考えることをテーマとしては、ステップ段階にあたる 2 年目の熟議となりました。毎年多くの方から、励ましとご意見を賜り、少しずつですが、熟議のあり方も見直しながら、熟議民主主義を支える兵庫大方式の熟議をこの加古川地域から発信をしたいと思っております。

今年は初めての加古川市との共催となり、岡田加古川市長にはご挨拶を賜りましたほか、ワークショップの視察や討論会の見学と、ご多用にも関わらず深くご関与を頂きました。民主主義を支えることの根幹は、関与をする、ということになります。社会を支える経済的基盤となる納税の義務を果たすのはもちろん、選挙権を得れば投票を行い自らの意思で政治を選び、あるいは自らが立って政治を変えるというような関与があります。そして岡田市長が推進される公開事業評価のように行政が供給するサービスのあり方をチェックする、という参加もあります。

ところで、行政だけでは公共サービスの供給が困難になり、それが多様化する中、サービスの配分を行う政治を選び、またそのあり方をチェックするという関与だけではなく、公私協働の観点から、NPO や社会企業、住民など市民が直接、サービスの供給主体となり、企画を考え、実行しその推進をチェックするということ来るべき時代の関与になると思われます。選挙権が未だ無い若い方であっても、これに参加することは可能です。

市民や住民が必要とするニーズを探り当て、それを解決する企画や実施に向けての計画を策定し、組織化するために、熟議は大変重要な役割を持つものと確信をしております。

今年の熟議では、加古川地域の市民の関心の高い、安全･安心について、テーマを防災･防犯に絞り、「安全・危険の判断は誰がするべきか」「防犯カメラは必要か」を議論しました。前者については、市民自らが判断するに当たり、共助としてのコミュニティが持つ過去の経験、公助としての自治体の知見を活用することが不可欠という結論になりました。後者については、カメラの設置はやむをえないとしながらも、個人のプライバシーを守るためにその管理には市民の知恵を集めることが必要、ということが出されました。立場の異なる方々の議論が集約され、市民の安全･安心を守るための解決の方向性が見つかったのです。

来年は、それを踏まえ、役割分担を考え、実現のための政策提言の段階に入ります。政策提言は行政に向けてというよりも、市民一人ひとりに向けたものになるでしょう。さらに多くの方々のご参加、関与をお待ちしております。

そして、熟議手法を広げることが民主主義を支え、市民が社会を守り、社会が市民を包摂するために重要との考えに基づき、その普及にも取り組みます。市民の皆様、特に高校生など若い世代の方が、この社会に関心を持ち、関与する方法として熟議を活用されるよう、兵庫大学エクステンション･カレッジ講座の拡充や、出前講義の実施、さらには実践のお手伝いをいたします。

今後とも兵庫大学･兵庫大学短期大学部は、地域の生涯学習の拠点として、市民の皆様に尽くしてまいりたいと思います。熟議へのご関与をお忘れなく、そして来年、お会いすることを楽しみにしております。